

## 内なる対話～「意味ある世間話」となるや、否や?!～

堂本 彰夫

⑧ 人種（民族）、宗教、政治体制、そしてカネ?!人間（人類）は、これらを、如何に克服できるのか?!

I：さて、最近は、かなり壮大な（否、大風呂敷な?）テーマで話をしていますが、もう一つ、今、私を悩ませているのは、他でもない、あの国の、隣国への侵攻（侵略?）に関わって、そこで頻繁に出てくる「〇〇人」というようなことですが、何故か、複雑な思いをさせるのです?!

D：露骨に言えば、ロシア人とか、ウクライナ人とかというようなことかと思いますが、ある時期までは（しかし、これもある時期から!）、彼らは、「ソ連人」でした?!しかも、彼らは、双方ともに、確か人種（民族）的には、「スラブ人種（民族）」ですよ（ただし、使用言語だけの話でもある?→インド・ヨーロッパ語族スラブ語派）?!だけど、彼らは、今は、まったく違った国（家）の人である!

I：まさに、そういうことなのですが、そうした「〇〇人」という言い方は、実際の、今ある国（家）という現実において、どのような意味合いをもつのか?そして、その国（家）というものには、「人種（民族）」「宗教」「政治体制」というものが、密接に絡まっているわけですが、それが、いわゆる「国籍」ということを加えれば、そうした「〇〇人」という言い方は、さらに複雑なものとなる?!

D：おそらく、そこに住む多くの人々の価値観や生活様式（もちろん、その使用言語によっても?）は、ある特定の変わらないものということになります（→いわゆる「アイデンティティ」?）、人種（民族）的特徴、特に、目に見える身体的特徴（言い換えれば、遺伝子レベルでのそれ）も含めて、そうしたものは、その人が、どこの国（家）に所属しているのかによって、その「〇〇人」という言い方は、複雑な様相を帯びてくるということになりますよね?!

I：そういう意味では、私達の、この「日本（国）」という国（家）は、そんなに複雑ではない?!以前、我が国が「単一民族国家」だと言って、響きをかいた政治家もいたようですが、表層的には、そのように見えなくもない（本当は、そうではないのだが!）?!要は、「人種（民族）」「宗教」「政治体制」という点で、使用言語とかも含めて、一つの国（家）としてのまとまりを有してきた?!

D：しかし、そこに、まったく別次元の「国籍」とかというものを重ね合わせていくと、いかに、それらが、多様で、現実の、各々の人種（民族）のあり様、まさに「国家」のあり様ということですが、多くの国（家）においては、それらが、うまく結合していない?!否、流動的でさえある?!だから、そういうところでは、遥か昔から、それに関わって、幾多の戦争や侵略が繰り返されてもきた?!

I：かのユダヤ（人）とパレスチナ（人）とかが、そうですね（他にも沢山ある!）?!また、かつての「ドイツ」や「ベトナム」も、そうでしたよね（まだ一つ、隣国には、それが残っている…）!

D：さながら、「人種（民族）」「宗教」「政治体制」は、一つの国（家）の共有の存立基盤であったわけですが、それが、かなり変質してきている?!極端に言えば、その三つは、必ずしも、一つの国（家）の共有の存立基盤とは言えなくなった?!しかも、今、そこには、「政治体制」という点で、大きく二つの国（家）群があり、そこには錯綜した現実がある（そこに不整合エネルギーが蓄積されている?）?!

I：そういう意味で、人間は、「国（家）」という形（ある種の装置 or 約束事?）を、「人種（民族）」「宗教」「政治体制」という基盤で創り上げてきたわけですが、しかし、それは、あくまでも「装置 or 約束事?」であるわけですので、その基盤のあり様が変わったら、その様相も変わる?!

D：であれば、人間は、これまでもそうであったように、これからも、それらを、如何に克服できるのかということになるとと思いますが、「人種（民族）」や「宗教」は、ある意味普遍ですので、問題は「政治体制」となってくるのでしょうか?!だが、そこに、「カネ（経済）」が絡んでくるので、さらに複雑となる?!まさに、「カネ（経済）」が、豊かさ（幸せ?）の源泉ということでもあるのですが、やはり、人間は、そのことを、長い歴史の中で学んだということでもあるのでしょうか?!（つづく）